

2023年度日本政府(文部科学省)奨学金留学生選考試験

学科試験 問題

(日本語・日本文化研修留学生用)

日 本 語

注意 ☆ 試験時間は100分

☆ 答えは全て解答用紙に記入すること。

(2023)

日本語

国籍 Nationality		番号 No.		点数 Marks	
氏名 Name	(フルネームを書いて、姓に下線を引くこと。 Please print your full name, underlining your family name.)				

問題

I _____ ^{はい もっと てきとう}に入る 最 も 適 当 な も の を A ~ D の 中 か ら 一 つ 選 び な さ い。

(例) わたしは ^{にほんご}日本語 _____ ^{べんきょう}勉強 しています。

A が B を C に D へ

1 この洗剤は水で _____ ^{つか}使 います。

A うかんで B うすめて C はいて D はかって

2 家に帰ったら、私と ^{わたし おとうと}弟 に 2 _____ ^{てがみ とど}ずつ手紙が届いていました。

A ^{さつ}冊 B ^{つう}通 C ^{とう}頭 D ^{めい}名

3 田中さん：「今晚、いっしょに映画を見に行かない？」

^{やまだ}山田さん：「試験勉強が忙しくて、 _____。」

A ^{えいが み}映画を見るところじゃないんだ B ^{えいが み}映画を見かねないんだ
C ^{えいが み}映画を見ざるをえないんだ D ^{えいが み}映画を見ないことはないんだ

4 健康のために、 _____ ^{たか}の高いものはあまり食べないようにしています。

A カロリー B バランス C ボーナス D メーター

5 あんなひどい店にはもう二度と _____ ^{みせ}まい。

A ^い行か B ^い行く C ^い行こう D ^い行って

6 技術の進歩 _____ ^{だいがく じゅぎょう}、どこからでも大学の授業が受けられるようになった。

A にとって B にともなって C のみならず D のわりに

7 あの人の家はとても大きくて、家 _____ ^{しろ}お城のようだ。

A というより B といえば C につき D につけ

8 自転車に乗っているときに事故にあったが、 _____ ^{おお}大きなけがはしなかった。

A あいにく B さいわい C せっかく D どうか

- 9 ^{いもうと}妹に^か貸した^{くるま}車は、^{きず}傷_____になって^{かえ}返ってきた。
- A あまり B ぎみ C だらけ D どころ
- 10 ^{たいせつ}大切な^{とも}友だちからもらった^{こうきゅう}高級チョコレートなので、_____なかなか^た食べられない。
- A おもいがけなくて B みっともなくくて
- C めんどうくさくて D もったいなくて
- 11 とりあえず_____点をまとめて資料を作ってみたので、細かいところはみんなで検討しましょう。
- A おおがらな B おおげさな C おおはばな D おおまかな
- 12 土日も休めないほど忙しいのだから、_____平日に休みなんて取れるはずがない。
- A せっかく B せめて C まさしく D まして
- 13 あの人は、病院で医者として働く_____、趣味で小説を執筆している。
- A かたがた B かたわら C からして D からは
- 14 何を言っても聞かない子どもに、毎日_____を焼いている。
- A 顔 B 気 C 手 D 胸
- 15 あの大きな道では、よく警察がスピード違反の車を_____。
- A 取り組んでいる B 取り締まっている
- C 取り立てている D 取り次いでいる
- 16 日々のストレスの蓄積が_____につながることもある。
- A インテリ B セクション C ニュアンス D ノイローゼ
- 17 高い目標に_____するには、地道な努力が必要だ。
- A 達成 B 伝達 C 到達 D 発達
- 18 今さらどんなに悔しがった_____、結果が変わるわけではない。
- A とあって B といい C ところで D ところを

19 何度も返事を_____が、彼女は何も言ってこなかった。

- A うながした B そむいた C ひきいた D みちびいた

20 田中さん：「山田さん、最近、_____じゃないですか。」

山田さん：「ええ。正直、ちょっと疲れているんですが、もう少しで終わらせることができるので、がんばってみます。」

- A 働いたきり B 働きたて C 働きっぱなし D 働くかぎり

Ⅱ _____とほぼ同じ内容のもの、または、_____と最も関係のあるものをA～Dの中から一つ選びなさい。

(例) けさ コーヒーを のみました。

- A きょうの あさ
B きょうの ゆうがた
C きのうの あさ
D きのうの ゆうがた

1 この前のテストはあまり準備できなかったのだが、意外と点数は悪くなかった。

- A 案外 B 相当 C 多少 D 余計

2 先週の試験の結果が心配でならない。

- A 心配しようがない B 心配することはない
C 心配でしようがない D 心配なことではない

3 あの人はいつも食事をおごってもらってばかりいて、ずうずうしい。

- A あつかましい B おとなしい C そうぞうしい D そそっかしい

4 こんなひどい雨じゃ、登山なんて絶対できない。

- A できかねない B できっこない
C できまいか D できつつある

- 5 政府の発表によると、来年5月に東京で国際会議が開かれるそうだ。
 A ことだ B ものだ C ということだ D いうものだ
- 6 台風で飛行機が飛ばなかったので、チケット代を返してもらった。
 A 取り消して B 取り戻して C 払い込んで D 払い戻して
- 7 田中さん：「山田さん、このレポートの3ページのところなんですが……。」
 山田さん：「あっ、タイトルが間違っていますね。あとで直しておきます。」
 A 検査して B 検討して C 修正して D 修理して
- 8 虫歯が増えると、体全体の健康に悪い影響を与えるおそれがある。
 A 与えるかもしれない B 与えるにちがいない
 C 必ず与えるだろう D 少しずつ与える
- 9 ずっと座って作業をしていて、立ち上がったとたん、めまいがした。
 A 立ち上がった、その瞬間に B 立ち上がって、しばらくしてから
 C 立ち上がる直前に D 立ち上がろうと考えただけで
- 10 授業中に友だちが変な顔をしているのを見て笑いそうになったが、じっと我慢した。
 A かかえた B くわえた C こそえた D こらえた
- 11 彼は時間によく遅れる。待ち合わせをしても、時間どおりに来たためしがない。
 A ベースだ B ポーズだ C ルーズだ D レースだ
- 12 兄の服をもらって着てみたが、大きくてサイズが合わなかった。
 A ぶかぶかだった B ふらふらだった
 C ぶらぶらだった D ふわふわだった
- 13 地元の食材を使った料理で海外からのお客様をもてなした。
 A 譲歩した B 接待した C 送迎した D 拝借した
- 14 今度の試験の成績によっては、希望の大学に入れなくなる可能性も出てきた。
 A いかんでは B いかんでも C いかんとも D いかんには

- 15 彼女は数々の苦労をものともせずに、社会的成功をおさめた。
- A 苦労に負けずに B 苦労をしたからこそ
C 苦労をほとんどしないで D 苦労をまわりの人にさせて
- 16 昔流行したファッションが、また若者の間で人気になっている。
- A かつて B かねて C しいて D やがて
- 17 駅のアナウンス：「台風のため、ただいま、電車の運行を見合わせております。」
- A 電車が遅れています B 電車が戻っています
C 電車は走っていません D 電車を点検しています
- 18 災害現場で働く救助犬は、わずかな匂いを頼りに生存者の場所を探し当てる。
- A かすかな B のどかな C はるかな D ひそかな
- 19 昨日の試合では、キャプテンの一瞬の判断が勝負の明暗を分けた。
- A 判断によって試合が行われることになった
B 判断によってチームの雰囲気が悪くなった
C 判断によってどちらのチームが勝つか決まった
D 判断によって引き分けになった
- 20 課外活動で暴力をふるうなんて、教師としてあってはならない行為だ。
- A 教師があるべき B 教師にあるまじき
C 教師に相違ない D 教師にほかならない

Ⅲ

_____のひらがなと同じ漢字で書くものを A～Dの中から一つ選びなさい。

(例) 漢字でかきます。

A スーパーで か い物を します。

B 今日は か よう日です。

C 今から 図 しょ 館へ 行きます。

D 本を よ みます。

漢字で書きます。

A 買 い物 B 火 よう日 C 図 書 館 D 読 みます

答え. C

1 あの人は父親の財産を そう 続し、土地やお金を手に入れた。

A あの双子は見た目や声はそっくりだが、性格は対 しょう 的だ。

B 同じ しょう 品でも、店での並べ方で売り上げが大きく変わるらしい。

C 急に電源が切れてしまう現 しょう については、現在調査中だそうだ。

D 首 しょう は各国の要人と電話で会談した。

2 駅のアナウンス：「2番線に電車が まい ります。ご注意ください。」

A 新しい法案は、さん 成が過半数に満たなかった。

B 論文を書くにあたって さん 考にした文献をメモしておく。

C 大人気のバンドが解 さん するというニュースを聞いて、びっくりした。

D 小学生のころは さん 数や理科が得意で、将来、理系の大学に進学しようと考えていた。

3 つぎ の角を右に曲がると、左手に郵便局が見えてくるはずだ。

A 最近、政 じ に関心がない若者が増えているそうだ。

B 週末は掃 じ や洗濯、買い物などで忙しくて、休むひまがない。

C 授業に持ってくるように指 じ されていた本を家に忘れてしまった。

D 本の目 じ を見れば、その本のおおよその内容がわかる。

- 4 ここは何本もの道が交さしているため、注意して運転しなければならない。
- A この時期は涼しい日が多いが、昼間に日がさすと汗をかくほど暑い日もある。
- B 心配なことがあって、よく眠れず、夜中に何度も目がさめてしまう。
- C 庭の木の手入れをしていたら、小さい枝が指にささってしまった。
- D 母親は、赤ちゃんがやけどをしないよう、スープをさましながら飲ませた。
- 5 台風で強い風が吹いて、店の大きな看板がたおれてしまった。
- A あの先生は熱心に指どうしてくれるので、学生から信頼されている。
- B 子どもたちがけんかをしないように、ケーキを平どうに分けた。
- C 近い将来、労どう力の不足が社会問題になると言われている。
- D 両親は私が幼いころからずっと働いていたので、代わりに祖母がよく面どうを見てくれた。
- 6 隣の家のおじいさんが亡くなったので、ご家族はもに服している。
- A この地区は治安が非常に悪く、物そうな事件がよく起こっている。
- B 仕事で大きなミスをしてしまい、すっかり自信をそう失ってしまった。
- C 長時間の登山の末に山頂に到着すると、そう大な景色が広がっていた。
- D 毎週末、この会館でクラシック音楽の演そう会が開かれている。
- 7 一時は工業で栄えたこの町も、今ではすっかりすたれてしまった。
- A 赤字の路線は、来年からはい止されることになった。
- B 明日の会議のために、会議室の机のはい置を変更した。
- C この物質が腐はいすることにより、有害なガスが放出される。
- D 若者たちが広場に作ったバリケードは、警察によってはい除された。
- 8 この地方の伝統工芸品には繊細な細工がほどこされている。
- A この動物はし育が難しく、動物園で見られることは少ないそうだ。
- B この町は福しが充実していて、どんな人にとっても住みやすい。
- C 囚人たちはカメラによって24時間監しされている。
- D 来月から新しい法律がし行されることになっている。

9 何事も あ きずに長く続けるのは、思いのほか難しいことだ。

A この職種の人材は ほう 和状態であり、新卒者が職を探すのは容易ではない。

B 将来、地域に ほう 仕できるようなボランティア活動がしたい。

C 先日の大地震で町の歴史的な建物がほとんど ほう 壊してしまった。

D ブランド品を買う際は、正規品によく似た模 ほう 品に注意しなければならない。

10 古い木の みき を加工して、テーブルやベンチを作った。

A 父の誕生日パーティーなのに、かん 心の父がまだ帰ってこない。

B 東京から大阪まで新 かん 線でおよそ2時間半かかる。

C 日本では契約などをするとき、サインの代わりに印 かん を使うことが多い。

D 母が かん 暦を迎えるにあたり、家族全員で集まってお祝いした。

Ⅳ 以下の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。答えはA～Dの中から最も適切なものを一つ選びなさい。

「わたしのいのち」という言い方をひとはよくする。この言い回しの意味するところはなかなかむずかしい。「わたしのいのち」というからには、わたしの服、わたしの鞆、わたしの鉛筆といったふうに、じぶんの持ち物、つまりはじぶんの所有物を考えるかもしれない。けれども服や鞆や鉛筆のように、いのちはだれかのそれと取り換えることができない。なくしたらまた別のいのちを買うというようなことはできない。とすれば、いのちとはそれが無いとわたしが生きていけないものといいかえられるだろうか。わたしに不可欠のもの、つまりわたしにとっていちばん重要な事物もしくは対象だといえるだろうか。(1) これもまだ不正確だ。なぜなら、「いのち」は「わたし」と別物ではないからである。「わたしのいのち」という言葉を口にしてこのわたしそのものが、いのちのひとつの現実であるからだ。その意味では、「わたしのいのち」とは生きているこのわたしの存在そのもののことだといいたくなる。けれども、そのいのちについて、わたしはほとんど知るところがない。からだの内部がどうなっているかを知らないし、いつ病気になるか、いつこの生が終わるのかもじぶんではわからない。いのちを養うということ、つまり食べるということも、勝手に食欲が生まれるのであって、わたしがコントロールしているわけではない。眠りたいとおもってもすぐに眠れるわけではないし、また「わたし」が眠っているあいだもわたしのなかでいのちは騒がしいくらいにざわざわと活動している。いのちはその意味でわたしそのものであるにはちがいが

ないが、わたしが理解しきれるものではないし、またわたしの思いどおりになるものでもない。いのちとはだから、じぶんがそれでありながら、(2) じぶんではどうしようも操作できないものというくらいにしか、まずはいいようのないものだ。が、それがなくてはわたしがいないということ、このことは**確実**だ。

だからひとは、このいのちはわたしのものだとはっきり主張する。そう主張してゆずらない。このいのちを攻撃されたり、ないがしろにされたりするのは、わたしが攻撃され、ないがしろにされることに等しいからである。このいのちをどのように取り扱うかについては、それはわたし自身のことなのだから、当然わたしが決める。これがわたしたちの自由というものである。個人が自由であるとは、個人がその存在、その行動のあり方をみずからの意志で決定できる状態にあるということだ。わたしの身体もわたしのいのちもほかならぬこのわたしのものであって、この身体を本人の同意なしに他から傷つけられたり、その活動を強制されたりすることがあってはならない。

けれども、だからといって、(3) いのちはそういう意味でわたしの所有物であるのではない。ひとはじぶんのいのちをじぶんで創りだしたわけではないし、じぶんのいのちをじぶんで閉じることもしない。だれしも他人の庇護のもとで育つ。他人にあれやこれやの世話を享けながら老いる。身体やいのちを、さらに広く「身」とか「身柄」というふうにとれば、家族生活をいとなむひと、いろいろな団体の公的な立場にいるひとにとっては、じぶんの身体をじぶんだけのものだと感じるもののほうがむしろまれだろう。

いのちはじぶんだけのものではないということ、このことは、食や性、育児や介護の場面ひとつとってもすぐにわかる。いのちはいつも、他の身体との交わりややりとりのなかにあるのであって、いのちの保ち方、いのちの行く末は、そのいのちにさまざまなかたちで与かっているひとのものでもあるのだ。だれかが死ぬということは、そのひとのいのちだけに起こる出来事なのではない。そのひとに死なれたひとびとにとってもそれは重大な出来事なのだ。個人のその身体が死体となったとき、そのいのちをともに生きた者がそのいのちを亡きものとして認める、(4) そういう行為をもってやっとひとつのいのちは絶える。「死とともに死者が誕生する」と言ったひとがいるが、その意味もそういうところにある。

(鷲田清一『死なないでいる理由』より、一部表記を改めた)

問い 1 下線部 (1) これもまだ不正確だ とありますが、それはなぜですか。

- A 「いのち」と「わたし」を同じものと考えるのはまちがいだから。
- B 「いのち」と「わたし」をはっきり区別するのは難しいから。
- C 「いのち」は、「わたし」が言葉を話すことで存在できるから。
- D 「いのち」は、「わたし」にとってあまり重要ではないから。

問い 2 下線部 (2) じぶんではどうしようも操作できない とありますが、そのことを具体的に述べたものとして正しくないものはどれですか。

- A 自分がいつ死ぬかを先に知るのは難しいこと。
- B 自分が眠りたいと思ったときに、確実に眠るのは難しいこと。
- C 食欲を自分でコントロールするのは難しいこと。
- D 病気になったときに、自分で治す方法を見つけるのは難しいこと。

問い 3 下線部 (3) いのちはそういう意味でわたしの所有物であるのではない とありますが、それはなぜですか。

- A いのちは、いつでも他の人から傷つけられる可能性があるから。
- B いのちは、自分と他の人々との関係の中にあるから。
- C 自分のいのちをどのようにするかは、自分で自由に決められるから。
- D ふだん私たちは、「わたしのいのち」という表現を使わないから。

問い 4 下線部 (4) そういう行為 とはどのようなことですか。

- A ある人が死んだとき、その人自身が「自分のいのちは亡くなった」と認めること。
- B ある人が死んだとき、その人自身が「自分のいのちは亡くなった」と認めないこと。
- C ある人が死んだとき、その人と関係のあった人たちが「その人のいのちは亡くなった」と認めること。
- D ある人が死んだとき、その人と関係のあった人たちが「その人のいのちは亡くなった」と認めないこと。

問い 5 本文と内容が合っているものはどれですか。

- A 自分の生き方を他人に決められることによって、個人の自由が成り立つ。
- B 自分のいのちについては、自分自身がいちばんよく知っている。
- C 自分のいのちを自分だけのものと考えるのは、まちがっている。
- D 私たちは、他人と関係をもたなくても自由に生きていくことができる。

V 以下の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。答えはA～Dの中から最も適切なものを一つ選びなさい。

(1) これまでの学校での勉強の仕方には、ある「前提」がありました。それは、教科別に学ぶことから始めて、そのそれぞれの分野を後で総合することで、自分の人生や社会での生活に知識や技術を活かしていくという学びの順序です。別々の教科から学んで、総合する。別々の教科を学んだ人が、あとで共同することが想定されています。しかしこの学びの順序は正しいでしょうか。

現代社会は、科学によって成り立っている社会です。(2) 科学は、「科目」、すなわち分野に分かれた知識ですから、専門化していきます。この専門化こそが科学を正確で厳密な知識にしているのですが、他方で、この傾向には大きな問題点もあります。それは、専門化が進みすぎてしまい、分野間で相互に理解できなくなることです。

これは危険な断片化です。世界の一部の断片だけをよく知っていても、全体が見失われてしまうならば、どれほどの意味があるでしょう。身体の腸の働きの一部がよくわかって、健康とは何なのか、身体をいたわるとは何なのかを考えなければ、そこで得た知識はどれほど重要でしょうか。科学がそれぞれの分野でバラバラに進んでしまうと、専門家たちも他の分野がまったくわからなくなってしまう。科学者も自分の専門以外は、まったくの素人です。医者は建築については何も知らず、法律家は農作物の肥料の効果についてはまったく知りません。

科学の専門化に対応するように、私たちの社会も専門性によって分けられています。分けられても誰かが全体を調整できればいいのですが、その役割はどの学問が担当するのでしょうか。いったいだれが担当するのでしょうか。

さらに、ある分野の知識をどれだけ獲得したかで、専門家と素人の序列が生じてきて、素人は専門家に従うしかなくなります。専門性が重視される社会では、専門家が優位になり、自分の分野を発展させようとしめます。しかし、全体が見えないままに自分たちの分野だけの発展を望めば、社会に大きなアンバランスが生まれてしまいます。場合によっては、社会の利益を犠牲にして、自分たちのグループだけの繁栄を願う分野エゴ、組織エゴに陥る場合さえあります。

(3) 全体が見失われると、社会が分断されるだけではありません。教育を受ける児童・生徒の立場に立てば、それぞれの科目が何の役に立つのか、これを学んでおくことが自分の人生とどうつながるかがわからないままに学年が進むことになります。そうすると、その科目を学ぶ意欲が失われていっても不思議ではありません。最終的には勉強する目的も、受験以外にはなくなっていくでしょう。(中略)

ある高校では、医学部受験を志望する生徒に、受験に必要な科目だけではなく、倫理や社会などの時間を使って、「健康とはどういうことか」「生命とは何か」「医療は人にとってどういう意味を持つのか」といったことを考えさせ、レポートさせているといいます。これは、受験用の知識だけを学ばせるのではなく、医学とは何かを広い視野から考え直させるためのものです。

なぜ、こういう授業を設けているかという、難関の医学部に入ったのはいいけれど、入学後に医学を学ぶ意欲がわからずに、途中で目的を見失ったり、挫折してしまったりする人がかなりの数出てしまうからです。医学部に限らず、受験を目標として学んできた人は、大学に入学してから、突然に学ぶ意欲を失いがちなのです。

学ぶことにおいて最も重要なのは、学ぶ意欲と動機をずっと持ち続けることです。学ぶことが、自分の人生に結びつき、社会のなかに位置づけられ、意味づけられることによって、はじめて人は学ぶ意欲を持てます。探究型の学習を高校ではもちろん、小中学校でも実施すべきなのは、探究では、知識の全体性が見失われることなく学ぶことができるからです。科目・教科は、バラバラに学んだ後に総合されるべきではなく、最初から全体のなかに位置づけられながら学ばれるべきなのです。

（４）大学での学びは、専門性を追求すると同時に、その分野の知識と他の分野の知識との結びつき、そして知識と社会との結びつきがとても重視されます。大学での学びは、専門的であるとともに、横断的・総合的です。高校までで、その学びのための準備をしておいていただきたいのです。高校生で自分の将来像を明確にもてなくてもかまいませんし、職業について迷いがあってもいいのです。ただ、探究的な学びをすることで自分の関心や興味の方向性、好きなことと苦手なことが見えてきます。これが大切なのです。

進学せずに、高校卒業後に就職を選ぶ人も多いでしょう。そうした人は、探究の時間がなかったら、知識の全体像が描けないままに社会に出ることになります。これは非常に心配な状態です。というのは、専門的な知識がどのように自分の人生に関わってくるのか理解しないままに人生を送ることになり、それを活用することもできなくなるからです。これが探究的な学びが高校までしっかり実施されなければならない理由です。

（河野哲也『問う方法・考える方法 「探究型の学習」のために』より、一部表記を改めた）

問い 1 下線部 (1) これまでの学校での勉強の仕方には、ある「前提」がありました
とありますが、この「前提」とはどのようなものですか。

- A 自分の人生や社会での生活で活用するために別々の教科を学ぶという前提。
- B 総合的な視野を獲得するために、別々の教科を学ぶという前提。
- C それぞれの教科を学んだあとで、教科を総合していくという前提。
- D 別々の教科を学んで、知識や技術の専門性を高めていくという前提。

問い 2 下線部 (2) 科学は、「科目」、すなわち分野に分かれた知識ですから、専門化していきま
す とありますが、「専門化」について筆者の考えに合うものはどれ
ですか。

- A 専門化が進み、一部の分野について、より詳細なことが明らかになることが何より重要である。
- B 専門化が進むことで分野間の相互理解が難しくなるので、専門化が進むことはまったく歓迎できない。
- C 専門化が進むと、得られた知識の活用法について考える機会がなくなるので、専門化は進むべきではない。
- D 専門化によって得られるメリットもあるが、自分の専門分野以外のことがわからなくなる危険性がある。

問い 3 下線部 (3) 全体が見失われると、社会が分断されるだけではありません と
ありますが、全体が見失われることにより、他にどのような問題が生じますか。

- A 高校生が目的を見失ったり、挫折したりして、大学の医学部に入りたくなくなってしまうという問題。
- B 子どもたちが科目の勉強と自分の人生とのつながりがわからず、学ぶ意欲がなくなってしまうかもしれないという問題。
- C 子どもたちが自分で好きな科目を選んで勉強しなければならなくなるかもしれないという問題。
- D 中学生や高校生が受験のために勉強しなくなり、日本全体の進学率が低下するという問題。

問い4 下線部(4) 大学での学び について、筆者の考えに合うものはどれですか。

- A 自分が将来何をしたいのかを高校卒業までにはっきりさせてから、大学での勉強を始めるべきだ。
- B 大学での学びにおいては、総合的に知識の結びつきについて考えることが専門性よりも重視される。
- C 大学では、専門的な知識を深めることに加え、他の分野の知識や社会との結びつきなど、総合的な視野が重要である。
- D 大学に入る前に卒業後の進路について決めておかないと、大学で学ぶ意欲を失ってしまう。

問い5 本文の内容に合っているものはどれですか。

- A 科学の専門化が進む一方で、知識同士の結びつきが進むように全体を調整している専門家がいる。
- B 学校で学ぶときは、まず科目を別々に学ぶのではなく、初めから全体の中での科目の位置づけについて考えながら学ぶようにした方がいい。
- C 専門家は自分の専門分野について詳しく知っているが、全体が見えていないので、専門的な知識がない人の方が優位に立つべきだ。
- D 大学に進学せずに就職してしまうと知識の全体像について考える機会がないので、大学進学を義務化した方がいい。